

## 牧草の放射性物質検査業務委託仕様書

### 1 業務の目的

除染後等の牧草及び畦畔草の利用自粛解除、牛肉中の放射性物質濃度の推計を目的とし、牧草のサンプル採取から検査及び結果報告までの一連の作業を実施すること。

### 2 委託業務の内容

#### (1) 農家との連絡調整

サンプルの採取に当たっては、岩手県（以下「県」という。）が提示する検査対象圃場名簿に基づき、圃場の所有者（または使用者）に連絡の上、採取場所及び採取日程の調整を行うこと。

#### (2) 牧草のサンプル採取

ア サンプル採取は、農家が牧草を利用する前に検査結果が報告できる日程で実施すること。

イ サンプル採取は、別紙1に基づき実施すること。

ウ サンプル採取にあつては、農家の立会い等により、採取場所を確認すること。

エ 採取したサンプルは、採取当日に梱包し、検査機関に送付すること。

#### (3) 放射性物質の検査

ア 検査は、ゲルマニウム半導体検出器を用いて実施すること。

イ 検査の検出下限値は、核種別に5Bq/kgとすること。

ウ サンプルは、水分補正のための水分計測を実施すること。

エ 検査機関は、ISO9001の認証及び放射能分析に関するISO/IEC17025の認定を受けていること。

#### (4) 検査結果の報告

ア 検査結果が判明した際は、速やかに別紙2「試料明細書」に検査結果等を入力の上、岩手県農林水産部畜産課まで、メールで報告すること。

イ 検査内容及び地域ごとに試料明細書を分けて、報告すること。

ウ サンプル採取から検査結果の報告までは、7日以内とすること。

#### (5) 検査済みサンプルの処分

検査が終了したサンプルは、適正に処分すること。

### 3 業務の実施期間

契約締結の日から令和9年3月31日

### 4 検査予定数

#### (1) 月別検査予定数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
5	55	120	70	120	10	15	1	1	1	1	1	400

(2) 検査内容及び地域別検査予定数

地域名	22Bq/kg 超過牧草	施肥管理 不足牧草	原因究明 牧草	新規牧草	畦畔草	耕起不能箇 所牧草	計
盛岡広域	0	0	0	5	0	0	5
県南広域	15	30	5	100	5	5	160
遠野農林	0	0	0	5	0	0	5
一関農林	25	50	5	120	5	5	210
沿岸広域	0	10	0	10	0	0	20
計	40	90	10	240	10	10	400

※ 検査予定数は状況により減少する場合がある。

(参考) 過去3年の検査実績：R5 453点、R6 267点、R7 163点

5 成果物の帰属

受託者は、本事業で得た全ての成果物は県に帰属するものとし、県の許可なく第三者に貸与又は公表してはならない。

6 機密の保持

受託者は、本業務の履行により知り得た、県が所有する業務上及び技術上の情報について、第三者に漏洩してはならない。

7 個人情報の取扱い

- (1) 受注者は、法第66条第2項において準用する同条第1項の規定による安全管理措置を講ずる義務及び契約内容の特記事項について遵守しなければならないこと。
- (2) 受注者は、当該業務において取り扱う個人情報の管理責任者（以下「個人情報管理責任者」という。）及び当該業務に従事する者（以下「受注業務従事者」という。）を指定し、実施機関に報告すること。
- (3) 特記事項に違反した場合には、損害賠償請求、指名停止等の措置を採る場合があり、法に違反した場合には、法の規定に基づき処罰される場合があること。
- (4) 個人情報の適正な取扱いを確保するため、実施機関は、別途報告又は資料の提出を指示する場合があり、その場合、受注者は、実施機関の指示に従うこと。

8 その他

- (1) 委託業務の実施に当たって必要とする器具及び消耗品等は、受託者が負担する。
- (2) この仕様書に定めのない事項又は疑義が生じた場合は、別途協議する。

## 牧草のサンプル採取手順

### 1 試料採取部位

通常、飼料とする部分

### 2 試料採取量

実重量で約2kgとする。

### 3 採取用具及び容器

#### (1) 採取用具

- ・かま、はさみ、カッターなど  
牧草の刈り取り、細断に使用する。

#### (2) 試料収納容器

- ・ポリエチレン製袋  
牧草の茎により穴あきしない厚手の丈夫なものであり、2kg程度の牧草について余裕を持って収納可能な大きさのものを使用し、1試料当たり2枚とする。
- ・輪ゴム  
ポリエチレン製袋の密閉に使用し、1試料あたり2本とする。
- ・ラベルシール  
試料番号、採取日等を記載し、1試料当たり1枚とする。

### 4 試料採取方法

牧草地の縦横の長さを考慮してほぼ等面積に9～12区域に区分し、各区分の中央部の作物体を約200gずつ採取する。

イネ科単播の場合は、通常、地面から10cmの高さで刈り取り、草丈の短いものでも生長点を採らないように5～10cmの高さで刈り取る。

マメ科単播の場合は、匍匐枝（ランナー）を採らないように注意しながら低いところで刈り取る。

イネ科、マメ科混播の場合は、生長点やランナーを採らないように注意しながら低いところで刈り取る。

試料は、試料番号、試料の種類、採取年月日、採取機関名及び採取名を記したラベルを貼付したポリエチレン袋に収納して密閉し、これをさらにポリエチレン袋に入れ二重に密閉する。

事務所等に戻った後、採取試料の風袋込み重量を量り、風袋（ポリエチレン製袋2枚、輪ゴム2本及びラベル）重量を差し引いて、採取試料の重量を求める。

### 5 留意事項

- (1) 雨天時の試料採取は、含有する水分量の増や雨水の跳ね返りなどが想定されるため、毎時10mm以上の降雨時及びその直後を避けること。
- (2) 採取者名や採取日時・場所、採取時の天候、採取位置情報（GPS情報）、現場の状況など、試料に関する記録をしておくこと。

別紙2 試料明細書

月 日

連番	サンプル NO	生産者 市町村名	振興局名	検査区分	牧草区分	生産者氏名	生産者連絡先 (電話番号)	生産者住所	圃場名 (住所、牧区名等)	面積(ha)	経営形態	検査機関記載										
												採取日	到着日	測定日	サンプル 重量(g)	含水率	精密分析結果			換算値	134Cs検 出下限値	137Cs検 出下限値
																	134Cs	137Cs	Cs計			
1																	0.0	0.0				
2																	0.0	0.0				
3																	0.0	0.0				
4																	0.0	0.0				
5																	0.0	0.0				
6																	0.0	0.0				
7																	0.0	0.0				
8																	0.0	0.0				
9																	0.0	0.0				
10																	0.0	0.0				
11																	0.0	0.0				
12																	0.0	0.0				
13																	0.0	0.0				
14																	0.0	0.0				
15																	0.0	0.0				
16																	0.0	0.0				
17																	0.0	0.0				
18																	0.0	0.0				
19																	0.0	0.0				
20																	0.0	0.0				
21																	0.0	0.0				
22																	0.0	0.0				
23																	0.0	0.0				
24																	0.0	0.0				
25																	0.0	0.0				

※ほ場一筆ごとに、1行で記入すること。